

B 部門

青柳いづみこ [大阪音楽大学名誉教授]

課題曲記号と曲目

注：□内の数字は小節番号

B5 ドビュッシー

「2つのアラバスク」より 2. 長調

B5 ドビュッシー：「2つのアラバスク」より 2. 長調

《12の練習曲》を書いたとき、ショパンに捧げようかクーランに捧げようか迷ったドビュッシーのピアニズムには、大きくわけて2つの流れがあります。ショパンの技法と、クーランに代表される18世紀のクラヴサン（チェンバロ）音楽です。

《アラバスク第2番》は華やかな装飾的パッセージとはずむようなリズムが特徴的で、「指先の軽い動き」など伝統的なクラヴサン技法をとりいれています。

クラヴサンという楽器は、モダン・ピアノと違って重さがかげられないため、タッチのコントロールが最重要課題です。クラヴサンはまた、音が長くつづかないので、さまざまな装飾音を駆使して旋律をふちどり、手のすばやい交替やグリッサンドのようなパッセージで華麗さを演出しました。

クラヴサンはとても鍵盤が軽く、信じられないくらい速く打鍵できるので、その効果を今のピアノで再現するのは困難です。余分な圧力をかけないように注意しながら、音の粒をそろえて鮮やかに弾かなければなりません。

《アラバスク第2番》にも、クラヴサン曲を思わせるトリルのようなパッセージが出てきます。この部分を軽やかに弾くためには、根元の関節のバネが必要です。

スタッカートにもさまざまな種類があります。指先で軽くはじくもの、手首でやわらかく切るもの、腕の重さかけるもの。

恩師安川加壽子先生は、手首やひじを縦に切るスタッカートを多用されてきました。ポーンと跳ね上げるため、指だけで切るスタッカートよりも音楽に必要な「間」が生まれるとのことでした。⑤～⑥はそれを応用して、ボールが階段からはずみながら落ちていくイメージで弾きましよう。

指の根元の関節のバネを使って押しつけないで、*legretto scherzando* ぽーンとはずませて上にもっていき
 軽やかに
P et très léger
 2は少し前に持ちかえる
 3-4はレガート
 dim. - - - -

ボールが階段をはずみながら落ちていくようなイメージで
 やわらかいアルペジオ 指先で軽く切る

